

会員各位

平成22年6月吉日
社団法人 岐阜県放射線技師会
会長 畑佐 和昭

平成22年度 夏季セミナー開催のお知らせ

初夏の候、会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、平成22年度「夏季セミナー」を下記の通り開催致します。つきましては、
会員の皆様にはお誘い合わせのうえ、多数の出席をお願い致します。

記

開催日時：平成22年7月31日(土) 14:00～17:20

会場：シティホテル美濃加茂

美濃加茂市太田町2565-1 :0574-27-1122

対象者：新人会者ならびに一般会員

～ ～ ～ プ ロ グ ラ ム 受付開始 13:30 ～ ～ ～

総合司会 増田 豊

オリエンテーション(14:00～14:30)

1 挨拶

会長 畑佐 和昭

2 技師会の概要と役割

理事 檜山 征也

教育セミナー(14:30～15:00)

「造影剤の適正使用について」

第一三共株式会社 稲葉 隆宏

講演(15:10～16:10)

座長 橋本 利彦

「エコーで診る泌尿器疾患」

岡波総合病院 放射線部 技師長 界外 忠之 先生

講演(16:20～17:20)

座長 岡田富貴夫

「診療放射線技師にとっての -安全・安心・信頼- とは？」

駒澤大学 医療健康科学部 准教授 奥山 康男 先生

セミナー終了後、情報交換会を開催します

- * 当日に参加費として500円、情報交換会に出席されます方は3000円を徴収させていただきます。但し、1年以内の入会者および本年3月卒業者は無料です。
- * 日放技会員カードを持参してください。

(社)岐阜県放射線技師会

社会の高齢化に伴い、泌尿器疾患における画像診断の機会は増加の一途をたどるばかりである。中でも、非侵襲で簡便な超音波検査はファーストチョイスの検査としてスクリーニングに汎用されることが多い。今回は、超音波検査のおもしろみを理解していただくことを目的に、代表的な泌尿器疾患の超音波診断におけるポイントを概説するとともに、最新の造影超音波の知見も交え、将来展望についても述べる。

腎では、大きさ、実質のエコーレベル、腎盂の拡張の有無、腫瘤・石灰化の有無などを中心に確認する。腎結石は腎盂・腎杯に強い高エコーとして見られ、shadow を伴えば診断は容易であるが、小さい結石では shadow を伴わないものも多く、診断に苦慮することがある。腎結石はその存在のみではあまり臨床的意義は無いが、腎杯や腎盂に拡張が見られた場合は、閉塞による感染の可能性があり指摘する必要がある。また、結石の大きさは、5 mm 未満の結石は自然排石が期待できるが、8 mm を超えるとほとんど自然排石が期待できないといわれているため、結石の大きさを報告することは重要である。

腎結石が尿路に落ちると尿管結石となるが、腎盂・尿管の拡張を伴えば拡張した尿路を下流に追い、特に生理的狭窄部を重点的に検索することにより拡張尿管内の高エコーが描出されれば尿管結石の診断も容易である。初診時に水腎症を見た場合、腎実質の厚みから水腎症の経過と腎機能を予測することが可能で、菲薄化している場合は腎機能が保たれていない旨を指摘することも重要である。

腎腫瘍は大きく良性腫瘍と悪性腫瘍に分かれるが、腎充実性腫瘍の80%は腎細胞癌であるといわれている。腎細胞癌は近位尿細管上皮より発生する悪性腫瘍で、外側に向かって突出することが多く、膨張性発育を示唆する被膜様低エコー帯は特徴所見で腫瘍内部は壊死や出血により不均一となることが多い。我々は腎細胞癌の詳細な観察のためにソナゾイドによる造影超音波を数例経験したが、典型的な clear cell carcinoma では、動脈相早期からの強い染影がみられ、豊富な腫瘍血管と壊死や出血を示す不染域が明瞭に描出され造影CTと同様の診断能が証明された。今後は腫瘍染影の違いや腫瘍血管構築の違いから腎細胞癌のサブタイプの鑑別診断にも迫ってみたいと考えている。腎細胞癌が肝に直接浸潤した症例にも造影超音波を用い、早期に境界部から始まった染影がほぼ同時に腎腫瘍と肝実質の一部を染影するパターンを認め、今までに経験したことの無い特殊な染影パターンに肝直接浸潤診断の可能性が示唆された。また、臨床上問題となる浸潤性腎細胞癌と腎盂癌の実質浸潤の鑑別にも造影超音波の有用性が期待される所見を得、今後症例の蓄積を待たなければならぬが造影超音波は腎癌診断のブレイクスルーになり得るのではないかと期待している。

超音波検査のおもしろみとは、超音波検査の最大の弱点とされる検査担当者の operator dependent を逆に利用し、自分なりに診断した結果を医師に報告し、時にその領域のブ

口としてアドバイスすることにより積極的に診断・治療に参加できることではないかと考える。泌尿器疾患の超音波診断を通じ、超音波検査のおもしろみを感じ、指示待ち技師から脱却し、本当の意味でのチーム医療の一員としての放射線技師像を目指してほしいと願い、今回の講演が何かのきっかけになれば幸いである。



「診療放射線技師にとっての - 安全・安心・信頼 - とは？」

駒澤大学大学院医療健康科学研究科
准教授 奥山 康男

医療の問題は誰でも関心を持つとともに、多くの人々の身近な課題でもあります。しかし、医療の構造は大変複雑で、かつ医学的な専門用語や厚生労働省や文部科学省などに関与する難解な法制度が障壁として立ちはだかっているため、それらの全容を理解して法律の改善を要望することは容易ではありません。いま、社会が医療側に求めているのは「安全で」「安心できる」「信頼ある」医療です。さらに「納得のいく説明」「短い待ち時間」「安価な診療費」といった患者の不満と立場に至るまで要求度の内容は、より各論化されて来ています。関係官庁や医療関係学会、医療機関、産業界などがこれらのことを真摯に受け止め様々な対策に取り組んではいますが、今日の厳しい経済社会の中においては、そう易々とは達成されないことも事実です。

医療の安全は、人間工学的な観点から「ヒト」、「もの」、「システム」から取り組むことが重要であり、それらを達成することにより安心（安全）と信頼が得られます。そもそも病院という組織は大変ユニークな職業人の集まり場です。それは、我が国のみならず先進国のほとんどが同様な体系を築いています。分かり易く言いますと、「一施設内で国家資格を有する医療人がいったい何人集まって仕事をしているのか」。そして、「その国家資格は何種類あるのか」ということです。一つの施設内でこれほど多種の国家資格を有する事業所は、おそらく病院だけでしょう。病院は、患者や家族に対して「安全・安心」を担保するためのライセンスと技術を職種毎に所有していることで「信頼」を得ていました。しかし、近年ではこの信頼性が非薄となり医療安全遂行のため当該国家資格の関係団体や学会などが積極的に医療安全に関連する講習会や実践法などの取り組みを行っています。

このような背景を基に本夏期セミナーでは「診療放射線技師にとっての 安全・安心・信頼」というテーマで私案を提示致します。結論から先に述べますと、診療放射線技師（以下、技師）は、「もっと偉く」、「もっと高賃金を」確保するための行動が必要で、そのためには「今貴方が出来ることを積極的に行う」ということです。すなわち、技師の知名度を高める行為を1人1人が前向きに取り組むことで社会的信頼を得る。社会的信頼が得られれば患者や家族は技師を医師と同等に敬う。同等に近い職位になれば賃金も高収入となる。職位と賃金が上がることで仕事にやりがいが出る。仕事にやりがいが出れば知識や技術の研鑽を目的に何でも取り組むことが出来る。

以上の流れを確立することで習得した最新の知識や技術を施設でフィードバックでき、患者や家族に満足度の高い「安全・安心」の提供と「信頼」が得られるということになるわけです。

今日までの技師は、職能団体や関係学会が主催する「専門技術系」や「被ばく線量・装置系」、「リスクマネジメント系」など、医学知識や技術向上、機器の安全管理、放射線被ばく低減を目的とした講習会など、たくさんの会に出席されて来たはずですが。それも職務としての出席ではなく、ほんの束の間の休日を返上して参加する方が大多数です。国内の多くの技師は看護師とは異なり（看護師のほとんどは勤務の一環として研修会に参加することが可能で、参加費等も事業所負担による平日研修会の参加権利を勝ち取っている施設が多いです）例えそれが診療業務に関係ある内容であっても日常勤務外でしか受講できない施設がほとんどだと思います。新しい技術を習得し、患者さんに高度医療技術を提供するのであれば通常は勤務時間内扱いでもよいと思うのですが、実際は技師の身分が関与しているかは分かりませんが、個人負担による自費参加が圧倒的多数です。……本当にご苦労様なことです。

諸先輩をはじめとする技師は、今日までズット患者さんや家族に対して「安全・安心」をスローガンに多くの努力をして来ています。技師はクタクタになるほど頑張っています。それなのに技師の身分や賃金などに変化はありましたでしょうか？

～であるならば視点を一挙に180度変え、新たな展開を模索しなければなりません。患者さんの安全・安心を担保するために技師が努力することは当たり前のことであり、永久的なものです。技師が今まで以上の行為を施すためには、そのための活力剤・栄養剤を導き出さなければならず、そのための到達目標を設定しなければなりません。

患者さんが満足することも大事ですが、そのためには技師自身も満足できる地位や賃金、仕事環境の確保が必要なのです。職場や社会で「もっと偉くなり」、「もっと高い賃金を貰う」ための行動が必要で、それが自分自身のヤル気に直結するのです。

今回「診療放射線技師にとっての安全・安心・信頼」について違った角度から私案を提示いたしました。すなわち、技師の『業務拡大』や『行為拡大』を社会的に認めてもらうことで技師は大きな活力源を得ることができ、今まで以上に患者さんに安全で・安心できる・信頼ある医療情報の提供が可能となるでしょう。



界外忠之 先生



奥山康男 先生



夏季セミナー会場風景